

美術館ニューズ

群馬の森

no. 206
2026 10/1

KINSEN

MURAYAMA

特別展示

村山琴泉
孤高の彫刻家

2026年9月19日[土]－11月8日[日]

会場：展示室4・5

休館日：毎週月曜日（ただし9月21日、10月12日は開館）、
9月24日（木）、10月13日（火）

開館時間：午前9時30分－午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般300（240）円、大高生150（120）円

*（ ）内は20名以上の団体割引料金

*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその付添1名、
群馬県民の日（10/28）に観覧される方は無料

協力：ハラサワコレクション



《犬持つ農夫》木彫



《漁師》木彫



《羊》木彫



《獅子舞》木彫、琴仙焼

いずれも作者：村山琴泉
所蔵：ハラサワコレクション
Photo: 毛利聰

村

山琴泉（1885-1967）は、明治から昭和を生きた前橋出身の彫刻家です。

1900（明治33）年に上京した琴泉は、象牙などを彫刻する牙彫家の金田兼次郎のもとで学びます。当時の東京では、象牙を繊細に彫った小品が盛んに海外に輸出されていました。しかし、師の金田は小品に飽き足らず、象牙を継ぎ合わせて大きな鷲や鷹を作るのを得意とし、琴泉も制作を手伝ったといえます。琴泉は、師の勧めで日本美術協会展や東京彫工会展に出品を始め、褒状を得るなどめざましい活躍をみせます。特に人物像を得意としました。

兵役を終え、明治末に25歳で帰郷した琴泉は木彫家に転身し、大正から昭和にかけて、人々の生活に根ざし

たテーマで作品の制作を続けました。その頃には牙彫の輸出が減り、彫刻は木彫が中心となっていたからです。県展などに出品する一方、信仰の対象であった観音や恵比寿・大黒像、千利休や李白など日本や中国の偉人、漁師や畑仕事をする人々の日常などを木に刻みました。歯を見せてほほ笑む庶民の姿は、明治末から大正初期に海外で好まれた牙彫の伝統と合致するようにみえ、令和の今ではどこかノスタルジックな感情を想起させます。

さらに琴泉は、滑石を彫り釉薬をかけて陶器のような肌合いを出した「琴仙焼^{かつせき}」を創作するなど、生きるためにも芸術を極めるためにも彫刻家であり続けました。この度、ハラサワコレクションによる作品約100点と、ご遺族旧蔵の資料類により村山琴泉の全貌に迫ります。

こども＋おとな＋秋の美術館 2026

美術館のリニューアル・オープンに合わせ、募集制のワークショップや、自由に参加できる創作体験など、美術に親しんでいただくためのイベントを開催します。開催日時などをご確認の上、お気軽にご参加ください。

【実施期間】

2026年9月19日(土)～11月7日(土)
毎週土曜日(計8日) 10:00～16:00

【内 容】

●ワークショップ 「つくる を ほぐす 造形あそび」

講師：山内 佑輔（学習環境デザイナー・東京造形大学特任准教授）

①午前の部「光と紙で つくって あそぼう」※要申込／無料

日時：10月3日 10:30～12:30

対象：どなたでも（事前申込 先着30名）

※午後は、午前中の活動で生まれた作品や活動の様子を会場で自由にご見学いただけます。

②午後の部「新聞紙と紙コップで つくって あそぼう」※申込不要／無料

日時：10月3日 14:00～16:00（入退場自由）

対象：どなたでも

場所：1F エントランスホール

●当館スタッフによるミニワークショップ

「琴泉・満点福笑い～琴泉から学ぶ豊かな表情～」※申込不要／無料

日時：9月19日、10月10日、24日、11月7日

各日 10:00～16:00

場所：1F エントランスホール

「ふしぎな絵画」※申込不要／無料

日時：9月26日、10月17日、31日

各日 10:00～16:00

場所：1F エントランスホール

●当館ボランティアによるワークショップ

「近美の森をつくろう！」※申込不要／無料

日時：9月19日、26日、10月3日、10日、17日、24日、31日、11月7日

各日 10:00～16:00

場所：1F ギャラリー

●いつでも参加できるワークシート

「アート・ノート」※申込不要／要観覧券

場所：2F 展示室



光と紙でつくってあそぼう
(イメージ画像)



新聞紙と紙コップでつくってあそぼう
(イメージ画像)



琴泉・満点福笑い



ふしぎな絵画



近美の森をつくろう！
(イメージ画像)

「トークフリーデー」はじめます。

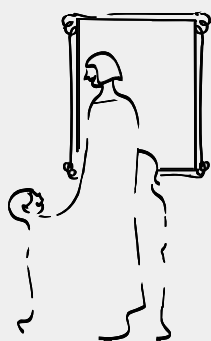
美術館は静かに作品鑑賞をする場所。そんな印象をもっている方も多いのではないのでしょうか。

当館では10月から毎月第3土曜日を「トークフリーデー」とします。どなたでも気兼ねなく作品についておしゃべりしながら鑑賞が楽しめる1日です。自由な会話をとおして、作品のあたらしい魅力を発見できるかもしれません。

お子さまと一緒にの方もお気軽にご利用ください。

「トークフリーデー」

今年度の開催日：10月～3月の毎月第3土曜日
9:30～17:00（入館は16:30まで）※観覧券が必要です。



コレクション展示

[展示室2・6]

■日本と西洋の近代美術Ⅰ 9/19～11/8

当館の収蔵品より、モネやピカソなどの西洋近代絵画ならびに彫刻、明治から昭和にかけての日本近代洋画を展示します。昨年度寄贈・寄託された新収蔵版画作品を初めてお披露目するほか、特集〈歿後40年 南城一夫〉として、群馬県前橋出身の洋画家南城一夫(1900-1986)による、草花や動物などを描いた詩情豊かな作品をご紹介します。



南城一夫《仔山羊のくる部屋》
1969年

[展示室3]

■新収蔵作品紹介 9/19～11/8

昨年度購入・寄贈・寄託により新たに収蔵した作品をご紹介します。片山真理のデビュー作《足をはかりに》や2017年に当館で発表された〈on the way home〉シリーズ全11点のほか、小林孝亘や丸山直文らによる1980年代から2000年代に至る作品群をご覧ください。



片山真理《on the way home #007》
2016年
©Mari Katayama. Courtesy of Galerie Suzanne Tarasieva, Paris, Yutaka Kikutake Gallery, and Mari Katayama Studio.

[展示室7 山種記念館]

■戸方庵井上コレクションの粋Ⅰ 9/19～10/12

■戸方庵井上コレクションの粋Ⅱ 10/14～11/8

「戸方庵井上コレクション」は、高崎市の実業家であった井上房一郎(1898-1993)によって蒐集され、群馬県立近代美術館の開館に際してまとめて寄贈された古美術のコレクションです。中国の南宋から清時代、日本の平安から江戸時代といった中近世の幅広い分野の書画229点から成り、質、量ともに充実しています。今回はリニューアルオープンを記念し、Ⅰ期、Ⅱ期それぞれ選りすぐりの作品をご紹介します。



金大受《羅漢図》 中国・南宋時代
重要文化財(展示期間:Ⅰ期)

■日本と西洋の近代美術Ⅱ 11/20～12/20

当館収蔵の西洋近代美術、日本近代洋画から選りすぐりの名品を、いつもと違った環境でお楽しみください。「ウジェーヌ・ブーダン展」に関連して、印象派のモネやピサロの作品もご覧いただけます。



クロード・モネ《ジュフォス、夕方の印象》
1884年
群馬県企業局寄託作品

Topics

群馬県立近代美術館ボランティア募集！

群馬県立近代美術館では、ボランティアの皆さんにさまざまな活動を支えていただいています。この度、当館ボランティアの13期生として活動してくださる方を募集します。

詳細は募集要項をご覧ください(当館ホームページからダウンロードできます)。

応募締切：2027年1月31日(日) 当日必着

[事前説明会]

応募をご検討される方に向けて、当館ボランティア活動と研修内容についてご説明します。

2026年12月6日(日) 14:00～15:00

会場：当館2階 シアター

※当日直接会場にお越しください。

※事前説明会への参加は必須ではありません。

M u s e u m | N e w s

友の会だより

Museum Shop

◆ミュージアムショップより

※新商品のご案内 当館所蔵の南城一夫《仔山羊のくる部屋》と葛飾北斎《鯉図》をモチーフにしたオリジナルトートバッグの販売を始めました。こちらの商品は昨年から販売しているオディロン・ルドン《ペガサスにのるミューズ》のトートバッグと同じく、(株)ROOTOTE(ルートート)とのコラボレーショングッズとなっております。美術館ご観覧の思い出に、ぜひお買い求めください。



左：南城一夫《仔山羊のくる部屋》
トートバッグ(白) ¥3,380(税込)
右：葛飾北斎《鯉図》トートバッグ(黒) ¥3,480(税込)
バッグサイズ 40×39cm / 持ち手長さ 57cm (背面と内側にポケット付き)

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 友の会 TEL 027-346-5560(館代表) / FAX 027-346-4064

Eugène Boudin

maître de l'instantanéité

ウジェーヌ・ブーダン展 印象派の父——光を求めて

2026年11月28日[土]－2027年1月31日[日]

会場：展示室1

休館日：毎週月曜日（12/7、12/14、1/11を除く）、
年末年始（12/28～1/4）、1/12（火）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般1,200（960）円、大高生600（480）円

＊（ ）内は20名以上の団体割引料金
＊中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその付添1名は無料
＊インターネット割引券またはちらい割引券どちらかをご提示で、2名様まで100円割引でご覧になれます。他の割引とは併用できません。インターネット割引券は当館のInstagram、X、Facebookに掲載されます。

主催：群馬県立近代美術館

協力：日本航空

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ

監修：ローラン・マヌーヴル

企画協力：ブレントラスト



本展は、「印象派の先駆者」「印象派の父」と呼ばれる19世紀フランスの画家ウジェーヌ・ブーダン(1824-1898)の画業を紹介する展覧会です。ブーダンは故郷ノルマンディーの空、海景、牧場の牛などをみずみずしい色彩と軽快な筆運びで表現したことで知られます。戸外で自然をじかに観察しながら、うつろいやすい光や大気を描写する制作手法は、若きクロード・モネをはじめとする当時の画家たちに大きな影響を与え、やがて印象派の誕生につながっていきます。日本では30年ぶりの本格的な展覧会となる今回は、油彩、素描、パステル、版画などの約100点の作品により、近代風景画の発展に大きく寄与したブーダンの魅力を新たな視点で問い直します。



《干潮》1884年 油彩／カンヴァス 117×161cm
サン＝ロー美術館 © Musée d'art et d'histoire de Saint-Lô, Pierre-Yves Le Meur

【関連事業】

ミュージアム・レクチャー

2F講堂、申込不要（定員200名）、要観覧券

①1月9日（土）午後2時～3時30分

「ウジェーヌ・ブーダン——風景画を変えた画家」
講師：岡坂桜子氏（SOMPO美術館主任学芸員）

②1月17日（日）午後2時～3時30分

「ブーダンと印象派」
講師：村上博哉（当館特別館長・武蔵野美術大学教授）

③1月27日（水）午後2時～3時30分

学芸員による作品解説会[レクチャー]
講師：佐藤聖子（本展担当学芸員）

学芸員による作品解説会[ギャラリートーク]

展覧会会場、申込不要、要観覧券
12月12日（土）、12月23日（水）、1月11日（月・祝）
午後2時～3時

群馬青年ビエンナーレ50周年記念特別賞 受賞作家展 郭家伶

2027年1月23日[土]－4月4日[日]

会場：展示室3・4・5

休館日：毎週月曜日（休日の場合はその翌日）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般300（240）円、大高生150（120）円

＊（ ）内は20名以上の団体割引料金
＊中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその付添1名は無料

当館が主催する「群馬青年ビエンナーレ」は、16～29歳の若手作家を対象としたジャンルを限定しない公募展です。前身である群馬青年美術展は1976年に始まり、91年から隔年開催のビエンナーレとしてリニューアル、さらに2001年からは全国公募となり、これまで優れた作家を数多く輩出してきました。

本展は、昨年公募した「群馬青年ビエンナーレ50周年記念特別賞」を受賞した郭家伶による受賞記念展です。郭は1994年中国に生まれ、2022年に東京藝術大学大学院修了、以後日本を拠

点に活動を続けています。変形キャンバスを支持体とした絵画作品やそれらを組み合わせたインスタレーションによりサイズや距離、遠近の感覚を錯乱させる表現には、郭が来日以來感じてきた文化的ギャップや違和感、アイデンティティの揺らぎが反映されています。

当館の巨大なホワイトキューブを使い、郭はこれまでで最大規模の個展に挑みます。まだ見ぬ表現との出会いに、どうぞご期待ください。



郭家伶《无人餐厅(人のいないレストラン)》
2020年
「群馬青年ビエンナーレ2021」入選作品

